2023年春ver
全5回 シリーズ

作業を基盤に我々の健康と幸福を考える

「作業的写真」プロジェクト

オンライン研修会

写真と会話で作業的存在を学ぶ

あなた自身を作業的存在として理解する
実践中心の全5回シリーズ!
基本的な講義もありますが

参加費
5000円
2回目以降の方は3000円

先着
10名

実践：写真を使って自分の作業について話す，聞くに集中する
作業の視点を身につけることが目標です　参加できる5回をお選び下さい

小田原 悦子 氏

講師

作業科学発祥の地、南カリフォルニア大学作業科学作業療法学部にて修士・博士号を取得．2008年から聖隷クリストファー大学作業療法学科にて教授として勤務後，2018年退職．日本作業科学研究会元理事，現在は国際交流班・研究推進班担当，元ISOS(国際作業科学研究会)理事．

3/5(日)　3/11(土)を選択

4/1(土)　4/9(日)を選択

4/22(土)　5/7(日)

5/20(土)　6/4(日)

時間はすべて
午前10～12時
(受付:9:45-)

この書籍を使って
研修会は進みます

申し込み
お問合せ先

右記の申し込みフォームQRコードからお申し込み下さい。読み取れない方は、以下の問い合わせ先へメールを下さい。申し込みフォームをお送りします

お問合せ先：nra20749@gmail.com（中塚 聡まで）

「作業的写真」プロジェクト オンライン研修会では講義だけでなく、参加者が持ちよった作業の写真について語りながら、作業的存在の理解を深めます。

以下はこれまでの研修会やワークショップで寄せられた感想の一部です

作業科学を学ぶことを通して，作業と人の関係性がはっきりしてきました．日常の作業の大切さがわかってきました．作業療法士としては，なんで自分が作業に関わっているのかがわかってきました．

勉強会では，自分や他の参加者が話した作業の話を繰り返し読み，分析を書き出すことを通して考えをまとめ，考える練習を繰り返しました．積極的な参加を求められるので，しんどい経験でしたが，作業の理解が深まったと思います．

研修内で実際にワークをしましたが、以前にも１度行い、本も読んでいるのに、作業の機能や意味がすぐに書き出せず、『理解したつもり』になっていたことが分かりました。

作業療法士の同僚の悩みにも，自分の言葉でコメントを返してあげられるようになったのには，自分でも驚いています．

勉強会で写真を使って自分を語ることは自分を作ることを助けてくれました．自分のアイデンティティーを確認することができました．また，自分が日々の生活でやっていることが大切であることを実感することができました．

書籍『作業的写真プロジェクト』序文より

小田原博士は、この本を説明の出発点として使うことによって、作業科学と作業療法がどのように作業を通して健康の増進、維持、回復に貢献するかを理解するプロセスに重要でユニークな貢献を果たしています。

南カリフォルニア大学名誉教授 Dr.Ruth Zemke

・作業的存在について学びを深めたい方

・作業療法の実践に作業的存在の視点を取り入れたい方は、

ぜひご参加下さい！